

岩手県総合計画審議会
令和3年度第3回県民の幸福感に関する分析部会

(開催日時) 令和3年6月17日(木) 9:30~12:00

(開催場所) 盛岡地区合同庁舎 8階 講堂B

- 1 開 会
- 2 議 題
 - (1) 分野別実感の分析について
 - (2) その他
- 3 閉 会

出席委員等

吉野英岐部会長、若菜千穂副部会長、竹村祥子委員、谷藤邦基委員、
Tee Kian Heng (ティー・キャンヘーン) 委員、山田佳奈委員、和川央委員

欠席委員等

広井良典オブザーバー

1 開 会

○池田政策企画課特命課長 御案内の時間をちょっと経過してしまいましたが、ただいまから第3回県民の幸福感に関する分析部会を開催いたします。

私は、事務局を担当しております政策企画部政策企画課の池田でございます。どうぞよろしく願いいたします。

○吉野英岐部会長 ちょっと待ってね。事務局の声聞こえていますか。大丈夫。

○若菜千穂副部会長 聞こえています。

○竹村祥子委員 聞こえています。

○吉野英岐部会長 はい、大丈夫です。

○池田政策企画課特命課長 本日は、広井アドバイザーが御欠席となっておりますけれども、運営要領第6条第2項に基づきまして、委員の半数以上に御出席いただいておりますので、会議が成立していることを御報告いたします。

なお、本日、竹村委員、若菜委員には、リモートにより御出席を頂戴しているところでございます。

それでは、開会に当たりまして、政策企画課評価課長、高橋より御挨拶申し上げます。

○高橋政策企画課評価課長 おはようございます。本日は、皆様大変お忙しい中御出席く

ださしまして、本当にありがとうございます。

これまで2回開催しました部会におきましては、分野別実感が低下、または上昇した要因について分野ごとに御議論いただいたところではありますが、今回その内容を踏まえまして年次レポートの素案としてお示しさせていただいております。

また、前回宿題となりました子育て分野と歴史・文化の分野における資料も別途作成しているところがございます。

この部会におきます分析結果につきましては、昨年度と同様、8月から開始する政策評価に活用させていただく予定としておりますので、今回お示ししました素案に対しまして、ぜひ忌憚のない御意見を頂戴いたしたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○池田政策企画課特命課長 それでは、議事に入ります前に資料の確認をさせていただきたいと思っております。お手元の方に資料1から資料4、あとチューブファイルの中に今回の年次レポート素案に使っています前回残っていたコロナの影響の部分ですとか、あと一貫して低値、高値のデータ、あと併せまして横ばいの部分のデータの基礎資料を参考資料としておつけしてございますので、御確認をお願いいたします。

また、前回部会で御了承いただきましたので、本日は非公開という形で開催させていただきますので、よろしく願いいたします。

資料の方はよろしいでしょうか。

2 議 題

(1) 分野別実感の分析について

○池田政策企画課特命課長 それでは、議事の進行につきましては、吉野部会長よりよろしく願いいたします。

○吉野英岐部会長 おはようございます。今日もこの会議室と皆様の所在する場所をリモートでつないで会議を行っていきます。

今回、前回とちょっとやり方が違うのは、発言する委員の皆さんの顔が映るように、谷藤委員に今回大きく左側に移っていただいております。今左側、端っこにいらっしゃるのが谷藤委員です。それから、あとは右側にティー委員と山田委員がいます。それから、和川委員が谷藤委員の奥にいますが、今日は実はハンドマイクを使わないで各自大きな声を出してやりますので、ハウリング防止を一応兼ねてやっています。私がこの辺にいますけれども、この前にいるとちょっと全体が映らなくなるので、いつもこっちの方になりますので、私は一応いないけれども、いるということにしてください。また全体の映像に戻します。

では、お手元に議事次第があると思っておりますので、それに従って進めていきます。それでは、議事の(1)の分野別実感の分析についてというところです。これは、県民意識調査の属性間の差の分析結果について事務局から御説明をお願いすることになっております。では、お願いします。

○**桜田調査統計課主任主査** それでは、資料1を御覧ください。こちらの資料ですけれども、令和3年県民意識調査における主観的幸福感及び分野別実感の結果について、性別、年代別などの各属性別で有意差などを一元配置分散分析で確認した結果であります。

○**竹村祥子委員** すみません。もう少し大きな声でお願いします。

○**吉野英岐部会長** もう移動して説明していいぐらいですよ、本当に。

○**竹村祥子委員** すみません。ありがとうございます。

○**吉野英岐部会長** いろいろ試行錯誤をしながら今やっておりますので、先生方にちゃんと情報が届くようなことが第一ですので。

○**桜田調査統計課主任主査** 聞こえますか。マイクの近くに今来ましたけれども。

○**竹村祥子委員** ばっちりです。

○**桜田調査統計課主任主査** それでは、説明いたします。

この資料1ですけれども、こちらは令和3年県民意識調査における主観的幸福感及び分野別実感の結果について、性別、年代別などの各属性別で有意差の有無を一元配置分散分析で確認した結果です。

調べた属性の種類は、性別、年代別、職業別、世帯構成別、子の人数別、居住年数別、広域圏別の7種類となっております。それぞれの折れ線グラフの左上のところに隅つき括弧の記号で有意差が認められる属性についてはアスタリスク1つから3つで示しております。有意差が確認できないものは、ハイフンとなっております。

また、それぞれの資料の奇数ページの冒頭ですけれども、こちらは2文章でアスタリスクが2つ及び3つが出た属性について、その属性の中で最も高い区分と低い区分についてを記載しております。

年次レポートにおきましても、文章で属性別の状況というところで有意差がある属性について、この属性の中の最も高い区分と低い区分についてを記載しております。

なお、性別においてのその他、年代における18歳から19歳、職業における60歳未満の無職というのは、サンプル数が小さいので、分析対象から外しています。

説明は以上となります。

○**吉野英岐部会長** 今資料1に基づいて御説明がありました。これは事実なので、このとおり出すことになると思いますけれども、御質問があればいただきたいと思います。

「なし」の声

○**吉野英岐部会長** よければ、これを踏まえての議論になりますので、こういった結果が

出ているということを知り、次に進みたいと思います。

では、続いては前回子育て分野と歴史・文化の分野について御意見が出ておりましたので、そのことについての御回答が事務局よりありますので、まず御説明をお願いしたいと思います。資料2。

○桜田調査統計課主任主査 それでは、資料2を御覧ください。こちらは、前回の部会において子育てのしやすさに係る実感が上昇していることについて、子供がいると回答した人だけで見ると実感はどのように変化しているかという御質問があったことに対する資料となります。

こちらの資料ですけれども、性別、年代別などのそれぞれの各属性別で子供がいると回答した人を抽出しまして、その方の子育てのしやすさに係る実感変動を調べた表となっております。

資料2の真ん中のところですが、基準年比較を行いますと、アスタリスク2つつけたところが5%水準で有意差が確認できた属性となっております。基準年比較ですと、年代別ですと40代、職業別ですと会社役員・団体役員と専業主婦（主夫）、広域圏別ですと県南広域振興圏で有意に上昇しておりました。

参考までに、昨年調査との比較を表の右側の方に載せておまして、こちらで見ますと、性別ですと女性、年代別ですと30代及び40代、職業別ですと会社役員・団体役員及び常用雇用者、世帯構成別ですと2世代世帯、その他世帯、居住年数別ですと20年以上、広域圏別ですと県央広域振興圏で有意に上昇していることが確認できました。

サンプル数につきましては、ページめくっていただいて、2枚目の方にサンプル数を書いております。

なお、子供がいると回答した人なのでありますが、調査票の設問であなたのお子さんは何人いますか、同居別居を問いませんということに対して子供の人数を回答した人ですので、もし回答した人が70歳以上、高齢の方だとして、その方にとっての子供ですので、子供はもしかしたら50代とかということもあり得るということがあります。

説明は以上となります。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。子育てのしやすさの実感を各属性別に見た結果ですけれども、特に子供がいると回答した人だけを抽出してみた結果を今日御説明いただきました。

全体的には去年より上がっているし、基準年よりも上がっているというのがまず1つです。子供がいる人だけで見たとしても上がっていると。3.22というのが上から2段目に令和3年で書かれているところがその数字だと思います。

多少ばらつきがありますが、基準年と比べて有意な差がある、つまり上がっているということが有意に認められるというのが年代別ですと40から49のところは3.35になっていますよということと、職業別ですと会社役員とか団体役員のところも有意に上がっていると、それから専業主婦（主夫）のところも有意に上がっているということでしょうか。あと、下の方に行くと県南広域振興圏のところも有意に上がっているということで、こういった方々のところで上昇が見られるという結果だと思いますが、御質問や御意見あ

れば承りたいと思います。

では、和川委員。

○和川央委員 確認です。アスタリスクのつけ方についての確認なのですが、先ほどの属性別の場合にはアスタリスクのつけ方、10%水準の場合には1つで、5%水準の場合は2つで、1%水準の場合3つという段階的なアスタリスクがついていたのですが、今回2個はついているけれども、5%水準のもの以上のものは2個で、10%のものにはアスタリスクがついていない、1%のところには3つになっているわけではないという理解でよろしいでしょうか。

○桜田調査統計課主任主査 はい、そのとおりです。

○吉野英岐部会長 みんな5%水準までで。

○桜田調査統計課主任主査 みんな5%水準までです。そこで区切っています。

○吉野英岐部会長 1%まで見ていないということ。

○桜田調査統計課主任主査 はい。

○吉野英岐部会長 ということだそうです。

それから、御質問ありますか。

これは5,000人の方ですね。

○桜田調査統計課主任主査 はい、そうです。5,000人。

○吉野英岐部会長 サンプル数多い方です。

○桜田調査統計課主任主査 はい。

○吉野英岐部会長 こういう結果になりましたということですが、竹村先生も若菜先生もいいですか。

結構実際に子育てをしている層で実感の上昇が見られるというようにも読めますということですね。

では、谷藤委員、どうぞ。

○谷藤邦基委員 ぜひやってくださいというつもりではなかったのですが、興味があるといったら整理していただいたということで、申し訳ないなと思っております。

やっぱり全然子育てに関わったことがないであろう人たちを除くと、実感が高めにしているというのが一つ、有意かどうかは別にしても、傾向としてあり得るかなということと、

あと結局私らはなぜ今これ分析しているかということ、来年度県民計画の第2期アクションプランに反映させていこうということがあるのだらうと思うのですけれども、そうすると一般的にどう思われているかというよりも、子育てについて何か施策が必要な人たちがどう感じているかというあたりをピンポイントで見ていくような視点も必要なのかなと思って、この結果を拝見しておりました。

そういう意味では、30代、40代あたりの平均点の数値が結構高めに出ているというのは、実際そういう支援が必要な人たちが満足度それなりにあるのかなというような印象も持ちながら見ていたところです。

以上となります。

○吉野英岐部会長 政策が向こうから実感できているようにも見えることでいいですか。

○谷藤邦基委員 少なくともネガティブな結果ではないなと思って見ていました。

○吉野英岐部会長 そうですね。30代、40代高いですね。3.44とか3.35というのも出ています。うまくいっているということですか。

○谷藤邦基委員 そこまで言うのはちょっと言い過ぎかもしれないですけども。

○吉野英岐部会長 客観数値が本当はこのバックにあるので、そっちと合わせ技で見ることには、評価ではやりますけれども、取りあえずこの意識調査のレベルだけで見れば、まずまずの実感をいただいているという。

○谷藤邦基委員 ここから直ちに何か問題がありそうだという結論には、少なくともならないかなと思います。

○吉野英岐部会長 ということでした。

では、よろしいですか。竹村先生、若菜先生、いいですか。

では、資料2はありがとうございました。

続いて、資料3、今ちょっと池田さんが説明席に参ります。

○池田政策企画課特命課長 それでは、資料3につきまして私の方から御説明をさせていただきます。

前回11番の歴史・文化の誇りの関係で、回答理由ということで誇りを感じる歴史・文化が見当たらないということの経年の回答状況を整理したものでございます。こちらの方につきましては、誇りを感じる歴史・文化が見当たらないという回答については、経年的に同じような動きがあるのではないかとこのところ御質問ございましたので、表1のところにつきましてこの2年間の推移の方を確認させていただいたところでございます。平成31年から令和3年の調査において、実感が低下した方は114名いらっしゃいましたが、そのうち11番を選択した人が今年は44人いらっしゃいました。2年連続で11番を選択して

いる方は、そのうち 20 名ということで、大体 5 割弱というような結果になってございます。

あわせて、12 番、地域の歴史や文化に関心がないという方も補足的に数字を追いかけてみたのですが、そちらの方につきましては、今年答えていらっしゃる方が 17 名、うち回答理由が 2 年連続で 12 であった方については 8 名ということで、こちらも大体 5 割弱の方が 2 年連続で御回答をされているというような結果になってございます。

あわせて、この 11 番の回答をされている方々の所得の状況というものも一応御発言ございましたので、整理してございます。内容の結果御覧いただきますと、100 万円未満の方が 13.6%、100 万円から 300 万円未満が 56.8%、300 万円以上 500 万円未満 9.1%、700 万円から 1,000 万円が 6.8%で、不明が 13.6%というような形になってございます。

おおむね補足調査の調査対象の分布と近いような形になっているとは思いますが、若干下振れしている部分はあるのかなと考えているところでございます。

私からの説明は以上です。

○吉野英岐部会長 今資料 3 に基づいて御説明がありましたけれども、これは質問された委員は谷藤委員でよろしいですか。どうでしょう。この状況については。

○谷藤邦基委員 何か顕著な結果が出たわけではないなという感じでは見ております。

あと、所得についての話、実は池田さんから説明されたとき、谷藤委員からの質問というので、あれ、そんなこと言ったかなとちょっと一瞬思ったのですが、要はどういう文脈で発言したかというのをちょっと今思い返していると、そういうことに目を向けるほど余裕がないという状況が背景にあり得るのかなという観点からの発言だったかと思います。

そういう観点で見たときに、例えば表 2 を見ても、実際回答者の割合に対して顕著な差があるという感じではないのですが、ただやっぱり比較的 500 万円以上、300 万円以上の回答者の構成割合から見ると、その辺の回答が少ないという感じではあります。それをどう解釈するかというのはなかなか難しいかとは思いますが、いずれある程度余裕がないと、なかなか目を向けられないのかなというのがちょっと今後見えたかなという程度で、いかにもそうだよなというところまではいっていないなと、そんな感じで拝見しておりました。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

これは補足調査だから、サンプルが 600 のところの調査結果ですよ。

○池田政策企画課特命課長 はい。

○吉野英岐部会長 誇りを感じる歴史・文化が見当たらないという理由が結構いらっしゃるの、その状況についてどういう属性なのかということ調べたのでしたね。

○池田政策企画課特命課長 はい。

○吉野英岐部会長 分かりました。

あるいは、同じ人が答えているのかどうかということでしたね。これについて御質問、御意見ありますか。

これは、元の回答状況はどれを見ればすぐ分かるのでしたか。全体像が分かる部分。

○和川央委員 資料1を見れば、属性別が出てくるので、いいのではないのでしょうか。

○吉野英岐部会長 資料1でいいですか。資料は3つだと。

○和川央委員 そういう意味ではなくて。失礼しました。

○吉野英岐部会長 資料1だと、全体のになってしまうのではないの。この全体というのは、5,000人調査の方。

○和川央委員 ああ、そうか、そうか。パネル調査の方ですね。

○吉野英岐部会長 そう、そう。この600人調査の方もデータをもう一度確認しようと思うと。

○池田政策企画課特命課長 前回資料の参考資料としておつけしている各属性の部分の低下した分野の中で、歴史・文化の5ページ目です。そこは実感別のグラフがあると思いますので。

○吉野英岐部会長 皆さん、お手元で確認できますか。今の分野別実感の回答理由、ページでいうと5と振ってある資料が前回渡されている資料の中に入っていますけれども、そこで実感が低下した人の回答の中で、誇りを感じる歴史や文化が見当たらないというところがすごく多いので、ここがどういう動きをしているのかということを改めて検証していただいたのが今の結果です。けれども、結果的にぱっと切れるような結果が出ていないということが今の谷藤委員からの御感想でもありましたけれども、事務局としてもそんな感じですか。

○池田政策企画課特命課長 そうですね。ちょっとこの数字をもって何かというのは、難しいのかなと思っています。

○吉野英岐部会長 分かりました。

下がそれを収入階層、可処分所得の状況で調べてみてもこういう数字になりましたという。

○池田政策企画課特命課長 はい。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

どうぞ。

○若菜千穂副部長 若菜です。聞こえますか。

○吉野英岐部長 聞こえています。どうぞ。

○若菜千穂副部長 すみません。今の資料3の下の表だったのですけれども、割合を私つけてくださいと言ったのですけれども、この割合ではなくて、母数に対するそれぞれの割合を見たかったなという。

○池田政策企画課特命課長 表4のことですか。

○若菜千穂副部長 所得が多いほどこの回答は少ないのではないかという仮説ですよ。だから、ここの全体に占める割合ではなくて、こっちの方が意図したことを確認しやすかったのではないかなという、すみません、そういう意味でした。また改めて出せとまでは言いません。この点は、もうあまり突っ込まないという雰囲気が出てあるので、聞いたのはそういうことかなということ。すみません。

以上です。

○吉野英岐部長 この割合の出し方が意図したものとちょっと違っているということですか、先生がリクエストしたものと。

○若菜千穂副部長 池田さん、いいですよ。

○吉野英岐部長 今見えています。大丈夫です。

○若菜千穂副部長 伝わりましたよね。

○吉野英岐部長 はい。

○池田政策企画課特命課長 全体の数が見たいということでしたよね。

○若菜千穂副部長 全数というか、すみません、私前回出ていないので、あれなのですけれども、所得が少ない人の方がこういうことに対して意識を払っている余裕がないのではないかなという御指摘なのであれば、もう割合の出し方はこれではなくて100万円未満の人の全体の回答数が幾つで、それに対する感じないと言った人をやった方がいいのかなと。

○吉野英岐部長 分かりました。言いたいこと伝わりました。

それぞれの収入階層の中でのシェアですね。感じない人が、仮説としてはもし所得の状況が効いているというのであれば、所得が高い方が感じる可能性があるのでは

はないか、所得が低い方だと感じられないという割合が高くなるのではないかというようなことを数字で出せるかどうかということだと思っておりますが、池田さん、出せますか。数字自体は出せるか。

○池田政策企画課特命課長 出せると思います。ちょっと後で作成して。

○吉野英岐部会長 ちょっとやってみないと分からないので、やってみてくれるそうなので、改めてその結果はお知らせがあると思います。

谷藤委員も最初おっしゃったのはそのことですか。

○谷藤邦基委員 要は、やはりそういうものに目を向けるには、ある程度の余裕が必要であろうという、だからどっちから見るかという話ではあるのです。収入が低い層から見るか、高い方から見るか。どっちから見ても多分同じことになっていきそうな気がしますけれども。

もう一つ、私言っていたのは、要するに誇りを感じる歴史・文化が見当たらないというのを同じ人に継続して聞いているのであれば、見当たらないということで実感が低下するというのはおかしいと思っていたわけです。

だから、表の1を見たときに、ずっと見当たらないを選択している人が20人いましたと。では、この人たちは低いままで実感が変化しないなら分かるけれども、これはどう解釈すればいいか。あるいは、残りの24人の人たちは、今回改めて見当たらないなと思ったというのはどういうことなのだろうと。だから、結局そこは数字見ても分からないのです。分からないのだけれども、そういう回答状況だというのは分かったと。

これを言ってしまうと身も蓋もないのですけれども、回答する人は、だから前自分がどう回答したかはあまり気にしないで回答しているのだろうと思うのです。だから、ここをあまり追及しても、多分実のある答えは出てこないのではないかなと思ったのが一番大きなところではあります。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

これ、見当たらなくなったということですかね。

○谷藤邦基委員 だから、そこが分からないのです。歴史、文化ですから、そんなに変わるとも思えない。逆はあると思うのです。今回のいろいろの縄文遺跡の関係で。

○吉野英岐部会長 ニュースが増えて。

○谷藤邦基委員 世界文化遺産に登録されますというような話が出てくると、ああ、そんな素晴らしいのもあったのだという発見があるというのもあり得ると思うのです。

でも、今まであったものがなくなるというのはあまりないと思うのです。そう思うと、だからこの解釈非常に難しいなと思って見ているのですけれども。いろいろ分析はしていただいても、数字だけ見ても、結局回答者の心理までは分からないなというのが多

分答えというか、我々が出し得る結論はそこまでかと。

○吉野英岐部会長 ということでした。

○谷藤邦基委員 だから、(1)と(2)はちょっと観点が違う話で、もうちょっと一般的に、やっぱりそういうのに目を向ける人たち、関心を持つ人たちというのはそれなりに余裕がある人たち、裏を返せば余裕がない人たちはあまりそういうことに関心がないのかなという、ちょっと違う観点からの話です。

○吉野英岐部会長 分かりました。

○谷藤邦基委員 (2)に関しては、若干その傾向は見えるかなという程度の数字にはなっているかなと思いますけれども、ただ顕著にということではないのかなと持思って見ておりました。

○吉野英岐部会長 そうですね。この(2)に関しては、変化というか、各年度ごとで見ても分かるというか、見当たらないと回答をしていた方がどういう属性が多いのかということですかね。属性の中において、そう答える人が多いのかということですかね。どうなのですかね。でも、あまり、ちょっと数字ないから分からないですけれども。分かりました。

これは難しいです。前もそうだったけれども、急に見当たらなくなってしまうということはないのではないかと。

○谷藤邦基委員 ないと思うのですよね。

○吉野英岐部会長 子育てであるとか教育だと、変動幅が結構あるとは思いますが、歴史や文化というのは増えこそすれ、減るというのがどういう背景に基づいて見当たらないという回答が増えてしまうのかというのは、なかなかそう簡単に解釈できないですね。

○谷藤邦基委員 あまり想像をたくましくしてもいけないと思うので、ちょっとそれ以上は深入りしない方がいいというか、この辺が我々の限界なのだろうと思います。

○吉野英岐部会長 分かりました。ありがとうございました。

もし、質問なければ資料3はこれで終わりにしたいと思います。

この辺までが前回の宿題というか、課題についての事務局側からの回答です。

それでは、こういったこと、ちょっと最後のところ、もう少し別の数値をとということはありませんけれども、こういったことを一応踏まえてレポートを作ってくださいになりますので、レポートについての現段階での素案ができていますので、それを御説明お願いしたいと思います。

○池田政策企画課特命課長 それでは、資料4につきまして御説明をさせていただきます。こちらの素案につきましては、基本的には昨年この本部会の2回目のレポートとしては、分析としては初のレポートになる前回のレポートと同様の構成として整理をさせていただいています。

前回からの変更点というところになりますと、1つは2ページのところに新型コロナウイルス感染症の影響を検討するという項目を、本部会での分析の内容ということで、新型コロナウイルス感染症の影響の部分の検討についての項目を追加してございます。

続きまして、その後、県民意識調査、調査分析結果が出ているのですけれども、9ページから補足調査の結果になっているのですけれども、こちらの方、今回補足調査の調査結果、前回まではちょっと載せていなくて、あくまでも変動要因の把握ということで、変動要因の把握の整理ということにはしていたのですが、県民意識調査の結果と同様に調査結果の方も原案としては入れさせていただいているということになります。こちらにつきましては、新型コロナウイルス感染症の影響というのが県民意識調査の方も追加になっていますので、そちらも併せて入れているということになります。ですので、14ページ以降は従来、昨年の調査結果で該当した中身、入れている中身ということになります。

おめくりいただきまして、16ページから第4章の分析結果をお示ししています。こちらの方につきましても、17ページの3の(2)、新型コロナウイルス感染症の影響の検討ということで項目を追加しているということになります。

以降18ページ、19ページは、昨年のおり属性別平均点の一覧表を載せて基準年比較をしていますし、20ページ、21ページにつきましては、前年との比較というものを追加してございます。22ページが調査開始年である平成28年から今年調査まで一貫して低値または高値であるというものの結果をお示ししているということになります。

主観的幸福感、ここから分析の方の取りまとめになるのですが、主観的幸福感のところにつきましては、推移ということで基準年比較と、あと前年比較の方、今回の部分については追加として入れさせていただいているというところが変更点になってくるかなと思っております。

24ページからは、本日御報告させていただいております一元配置分散分析の結果の方を掲載させていただいているということになります。

26ページから分野別の結果ということになってございます。低下したものの、上昇したものの、横ばいという形で整理をしてございます。本日の部分につきましては、一貫して低値、高値の部分が新しく入ってきているということと、横ばいの部分が入っていることがございます。

低下した分野、28ページから記載をしているのですけれども、こちらにつきましても推移のところは基準年と前年比較が入っているということで、昨年との違いが入ってございます。あわせて、新型コロナウイルス感染症の影響ということで、前回まで御審議いただいたような中身を記載しているところです。

②の分野別実感が低下した要因というところで、こちらの方なのですけれども、今までは補足調査の結果から得られた回答項目の理由、選択項目からそのままを変動要因として整理をしていたのですが、もう少し分かりやすい表現として要因を記載できないかということで、その部分の表現を若干変更しているということですので、その表現の形でよ

いかどうかというようなところで御意見を頂戴したいなと思っています。

ここの部分におきましては、変動要因として関連が深い項目として選定されているのが自由な時間の確保ですとか、知人・友人との交流、趣味・娯楽活動の場所・機会というような項目でございましたので、低下した要因としては自由な時間を十分に確保できなかったこと、知人・友人との交流が減ったこと、趣味・娯楽活動の場所・機会が減ったことというようなことで、要因として推測しているというのは記載をさせていただいているというものでございます。

あわせて、新型コロナウイルス感染症の影響ということも項目としての記載、前回からの追加ということにしております。こちらのところについては、多くの方、60%の方がよくない影響を感じていたということと、前年調査に比べてよくない影響を感じた人であって、前年調査に比べて実感が低下した人の主な回答理由が分野別実感が低下している要因と同じということなので、やはり一定程度新型コロナウイルス感染症の影響があったものと考えられるというような記述を追加してございますので、その点についての書きぶりというか、その内容のところについて御検討をいただければと思っております。

続いて、一貫して低値、高値で推移している属性とその要因ということにつきましては、昨年度と同様の分析方法での記載をさせていただいているというようなところでございます。

今回の変更点は今お話ししたようなところで、各属性の部分でやらせていただいております。

あと、今回追加になっている横ばいの部分なのですが、45 ページ、46 ページあたりからなのですが、去年は変動のあった属性、基本的に横ばいなので、理由の分析は難しいというのが去年の考え方であったかと思っておりますので、その中で去年のレポートの中では有意に変化した属性の要因というものも一応分析ということも検討したところではあるのですが、なかなかばらつきとか、そういったものを含めて、この横ばいという分析としては今回はちょっと入れていないというところが前回との違いになってくると考えてございますので、その辺りの表現の仕方も含めて御意見を賜ればと思っております。

一応概要としては、事務局からは以上でございます。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。昨年も作りましたけれども、この部会の一番の仕事としては、この年次レポートを作って提出するということにありますので、これが最終的には外に出る成果物ということになります。

今池田さんから御説明ありましたとおり、基本的なつくりは去年のつくりを踏襲することではありますけれども、冒頭お話あったとおり、コロナに関する項目が今回は調査項目に入っているのです、それについての結果の記載を入れていくということが前はなかったことです。

それから、比較をする場合に基準年比較と、基準年というのは平成 31 年、2019 年ですけども、前年比較というものも併せて今回行っていると。前年というのは令和 2 年、2020 年ということなので、2つの比較を併用しながら結果を分析していくとなっていることが去年と違う点。

それから、600人調査の方です。補足調査についての結果の概要についても今回は載せま

すよということになりましたので、9ページから13ページについては、新しく結果を報告するというような追加がありますという説明もありました。

あとは、昨年どおり実感が低下した分野の分析、実感が上昇した分野の分析、そして実感が横ばいであったところの分析ですけれども、主に低下したところと上昇したところを中心に分析をするということがお話ありました。

今回結構変動が各分野で見られて、実感が低下した分野は4つあるのでしたか、ページでいうと28ページから始まって、35ページまでが実感が低下した分野で、4分野についてやや詳しく状況を分析しています。去年低下した分野はもっと少なかったのでしたか。

○池田政策企画課特命課長 低下は6分野です。

○吉野英岐部会長 6分野。では、それは去年6から4になったということですね。

それから、実感が上昇した分野は35ページから始まりまして、例えば心身の健康とか、子育てとか、子供の教育とか、必要な収入や所得、4つについて今回分析をかけています。ですから、4つというのは前に比べると増えているのですね。変動を見ると、低下した分野は6から4に減って、上昇した分野が1から4に増えているということで、全体的には押し上げがあったのではないかとも見えるということです。

そして、最後に実感が横ばいであった分野は残りということになるのかな、4つですね。46ページからあるので、大きくその3つの分類に基づいて、それぞれどうしてなのかということ調べたのがこのレポートになります。

では、冒頭に戻りますけれども、最初のところはよくある報告書のスタイルですので、大きな変更点がないので、このままでいいのではないかなと思います。

大きな変更点があったのは、コロナについてはこれはもう聞いていますので、答えは当然載せますので、変更というよりは追加ですので、問題はないと思っておりますけれども、今回かなり新たに追加したのは、9ページはともかくとしても、10、11、12ページでしたか、この補足調査についての結果概要についてもレポートで載せますというのが今年の新たな取組です。

これをやった結果、実は主観的幸福感、10ページにあるのですけれども、これ結構高いのです。10ページに折れ線グラフがあるのですけれども、主観的幸福感を感じるとやや感じる人の割合がもともと高かったのですけれども、今回も高いということで、これは別に高い人を選んで調査しているという意味ではなくて、調査に御協力していただいた方々の結果が高く出ているということで、意図的なものではないのですけれども、こう載せると高い人だけ選んでいるのではないのというふうな見られ方もしないでもないのですけれども、そこは御懸念がなければこのままと感じておりますけれども、先生方、いかがでしょうか。特に問題なければこのまま行きますが。

はい、では和川委員。

○和川央委員 和川です。実際載せることは、私はよろしいものかなと思っているのですが、場所がここなのかなというところが少し疑問というか、感じているところがあります。

何が言いたいかというところ、このレポート、すごく複雑で、読むのにすごく大変だなとい

うところがある中で、直接分析に使っていないところが刺さってくると、読み手が非常に混乱してしまわないかなという懸念がちょっとあります。

載せるのはいいので、例えば巻末にそういったところは全部載せるとか、何か分析に使っていないところについては別立てで載せることで、少し読みやすさ、見やすさというのにも配慮してもいいのかなとは感じています。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

事務局は何か御回答ありますか。

○池田政策企画課特命課長 参考資料に掲載するというようなイメージですよ。

○和川央委員 出し方は、私は特にこだわりはないです。この巻末でもいいですし、前と同じように参考資料でもいいのですが、出すことについては何ら私は否定はしないのですが、ここに差し込む必要性はないかなと思うので、出し方はお任せをいたします。

○吉野英岐部会長 ここまで読まれてしまって終わりというわけにもいかないのですが、この後が本番というか、大事な分析をやりますよというところの前にちょっと置くと、こっち読まれてしまって終わるのではないかということですかね。

○和川央委員 あと、県民意識調査を読んでから、あれ、これ何が違って、何なのだけという。そして、結局もう終わってしまうという、下まで読んでくれないのではないかな。目的はこの分析なので、分析に関することだけをまずはレポートには載せて、参考資料とか、そういったものは後ろに載せることで少し見やすさを優先してもいいかなというふうな。

○吉野英岐部会長 ここに載せると、県民意識調査、5,000人調査との比較を何かされてしまいそうな、読み手の方で。

○和川央委員 それで混乱しなければ、あと見づらくなければいいなというところが感じています。

○吉野英岐部会長 ただ、この部会が狙っているのは、600人の中での動きの方を実は主眼で見たいということなので、県民意識調査の移動を主眼で見ているわけではないというように踏まえると、ここだとちょっとインパクト強いかなという。

○和川央委員 という気が。

○吉野英岐部会長 そのほかの御意見ありますか。

山田委員、どうぞ。

○山田佳奈委員 すみません。ごく簡単などころではあるのですがけれども、印象という意味では、今和川委員さんおっしゃったことと共通するところで、例えば10ページ、ここは補足調査になっているところだと思いますので、冒頭の県全体の主観的幸福感というところ、ここ補足調査においてはという、何かちょっと入れていただいた方がひよっとするとぱっと見たときに分かりやすいかなと思います。県全体というふうなのがあると、県全体の調査のような。

○吉野英岐部会長 この文章ね。

○山田佳奈委員 ごめんなさい。文章の話です。

○吉野英岐部会長 こっちの方が正しいのではないかと聞かれると、そういうものではなくてという、あくまで補足調査のサンプルの中での結果ですよというのを明記した方がいいと。

○山田佳奈委員 より明確な方がいいかなと思いました。

○吉野英岐部会長 場所はここでもいいですか。

○山田佳奈委員 場所は、非常に見やすく作っていただいたのですがけれども、確かに並ぶと分からなくなってしまうというか、参照するとき、最初からたどっていくと分からなくなってしまうと思いますので、確かに和川委員さんがおっしゃったように、別のところに参考として入れてもいいのかもしれないとは思いますが。

○吉野英岐部会長 分かりました。ありがとうございます。
そのほかの御意見はいかがでしょうか。

○谷藤邦基委員 今手を挙げようかと思ったのですがけれども。

○吉野英岐部会長 もう予感がしました。

○谷藤邦基委員 直接ここに関わる話でもないのですが、全体の構成として、今和川委員、山田委員からそれぞれお話ありましたけれども、私も今回、これある意味義務だから最後まで読んだのですが、やっぱり構成が非常に複雑になってしまっているところがあると思うのです。ただ、しょうがないです。調査の蓄積が増えてきて、基準年調査と前年調査が入ってきたりとか、いろいろな形で、さらにコロナの話が入ってきたりとかということで、構成が非常に複雑になってしまっているという印象がまずあります。

その観点で見ると、実は構成としては、報告書のスタイルとしてはこうなのだろうと思うのですがけれども、最初に例えばエグゼクティブサマリーなどの形で、この調査の結果は大体こんなものですよと先に出してしまうというのも手かなと思ってちょっと見ていまし

た。

○吉野英岐部会長 A4、1枚ぐらいで。

○谷藤邦基委員 私らは、いろいろ延々議論を積み重ねているので、大体どんなことが書いてあるかというのは分かって読み始めますけれども、大概の方はいきなりさらでこれを見始めるわけですね。そうすると、本来我々が訴えたいことというか、分析の結果として重要な部分というのになかなか行き着かないのですよ、順を追ってやっていくと。数学の定義から始まって、延々定理の証明を試みたい話になっていくのです。結局何を言いたいというのが最後まで分からないみたいな話になってしまうので。

だから、一番最初のところに本報告書の内容の中でもいいかもしれませんけれども、何かそういうサマリーを最初に持ってくるというのもありかなと思ったところが1つです。ですから、今の話の関連で言うと、全体の複雑さを緩和するような意味合いでは、そういう構成もありかなと。

○吉野英岐部会長 これ、概要版はつくのでしたか。

○池田政策企画課特命課長 はい。皆さんのお手元の資料にも、去年のレポートのところにも挟んでいたかもしれないのですが、基本的には概要版を別途お作りして、概要版の中でどういう変動要因があったのかというのをずらっと書いているようなものはお作りする予定で、次回、7月ぐらいには今回のレポートの内容が固まってきたら、そういったものもお見せさせていただきながらかなと思っていたのですが、本体の方にも何か入れた方がいいのかどうなのかという。

○谷藤邦基委員 もっと簡単でいいと思うのです。

○吉野英岐部会長 もっと簡単でいい。

○谷藤邦基委員 要は網羅的に全部書く必要はないので、特徴的というべきか分からないのですけれども、例えば実感の変動が横ばいの部分はもう最初から

○若菜千穂副部会長 すみません。聞き取れません。

○谷藤邦基委員 すみません。

○吉野英岐部会長 今ちょっとマイクを移しました。

○谷藤邦基委員 どの辺からお話しすればいいですか。最初から言った方がいいですか。

○若菜千穂副部会長 今の話のところですか。

○谷藤邦基委員 概要版は概要版で、これはいいと思うのですけれども、これほどの内容でなくてもいい、要するに本体のサマリーとしてはこれほどの内容はなくてもいいと思うので、もっと簡単なもので、要点だけ伝えるようなものがあればいいのではないかなというのが私の考えです。

○吉野英岐部会長 盛り込む情報が増えてきて、だんだん複雑さが増えるのは、これは致し方ないところなので、これをどう緩和して読みやすくするかというときに、本体だけ読んでも、その本体の中身がぱっと分かるものが1枚目に入っていると、それはそれで読みやすくなるのではないかなということですね。概要版は概要版で、またそれはそれで作っていただくと。

○谷藤邦基委員 ええ。これはこれでいいと思うのです。逆に言うと、概要版しか見ない人も多分多いと思うので、概要版があまりあっさりしていると、それはそれで問題かなと思うので。

ただ、あくまでも本体のレポートを読むときの導入として、大体どんなことが書いてあるのかというのがあらかじめ見えるようなサマリーが最初にあるといいのではないかなと思ったというところです。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

竹村委員、若菜委員は、御意見いかがでしょうか。2人ともミュートになっているので、どちらか御意見いただければと思います。いかがでしょうか。

○若菜千穂副部会長 竹村先生、どうぞ。

○竹村祥子委員 前も概要版がついていて、概要版からいろいろな元の詳しいデータへとひもづけがされるように、ページ数がついていたような概要版だったのではないかとちょっと思うのですけれども、そういう意味では7月になって概要版ができたところで、今のお話をもう一度したらどうかなと思っています。

今回も多分結果の中で、コロナの影響が今年度どういう影響として捉えられているのかというのを書いておかなければいけないと思うのですけれども、おおむねコロナによって極端に幸福感が落ちたということがなかったということが非常に重要だと思うのです。全体としては、実感が上がったと、高くなったとなっているのですけれども、その説明の仕方からすると、コロナの影響はまず令和3年当時のところでは低くなっている。ただこの後、今年の動きが、ちょっとコロナ疲れみたいな形で、来年の1月には今度は低く出るのではないかなという気もしていて、そこのところに響かないように、概要版のところでは高くなったと、上昇したは上昇したのですけれども、そこのところの書き方を少し注意して概要版では書いておいた方が、単純化して書くとすれば、分かりやすく書くとすれば、そういうことの注意が重要なのではないかなと今は思っています。

若菜さん、どうぞ。

○吉野英岐部会長 若菜さん。

○若菜千穂副部会長 竹村先生のおっしゃるとおりかと思います。ちょっとすみません、概要版が私ばっとイメージできていないので。

○吉野英岐部会長 コロナの影響が今回は直接的にはあまり見られていないのですよね、実感に。だから、それをいわゆる県民、市民感覚で見ると、そんなことはないだろうというような人もいらっしゃるかもしれないということですかね。やっぱり竹村先生や若菜先生のコロナの影響というのは何らかにあるはずだというような前提があったけれども、実際は調べてみたら、それほどではなかったというようなストーリーでしょうか。

○若菜千穂副部会長 そこは、淡々とデータはそうなりましたと伝える以外はないのではないかなと思いますが。

○吉野英岐部会長 ちゃんと伝えれば分かってもらえるはずだという。

○若菜千穂副部会長 という仮説で当然調査項目を増やしましたがということで、そこを強調ですよ、今回のポイントかなと思います。

○吉野英岐部会長 あと、竹村先生おっしゃったように、でもこれはコロナが続いているので、来年調査についてはまた改めて分析しなければいけないという、これでもってもうコロナは関係ないとまでは言い切れなけれどもということでもいいですか。

○竹村祥子委員 データの読みとしては、低下した、上昇したと確かに書かれているのですが、上昇の意義というのをどう説明するかといったときに、コロナの悪影響があるだろうと予測したのだけれども、実感の問題としてはむしろ悪影響の方へは動かなかったということ、悪い影響の方が心配していたほど出なかったというくらいにしておいた方がいいのではないかということです。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

書き方の問題ではありますけれども、恐らく県がやっている客観的な数字を取っている方がかなり目標値を変えなければいけなくなってしまったとか、当初の予定どおり進んでいない事業がかなりあるようなことがこの間の総合計画審議会でもお話があったとおり、客観的に見るとやっぱり影響が出ているだろうなとは思うのです。

ただ、いわゆる幸福実感というところまでそれがダイレクトに反映しているとはまでは今回は言い切れないということなのかなと、同じようなことを言っていますけれども、これを表にして、だから別に大丈夫だということは言えないということだと思う。そこは書きぶりだとは思いますが。一応調べてはあるので、コロナのことも。決してコロナのことを全く外して分析しているわけではないし、入れたとしても大きな影響が出ていないと、実感

レベルではということかなと思いました。ありがとうございます。

○谷藤邦基委員 話がコロナのことになっているので、ちょっといいですか、1つ。

○吉野英岐部会長 どうぞ、谷藤委員。

○谷藤邦基委員 新型コロナの影響ということで、各分野別実感の分析の中でそれぞれ項目ウとして載せてある、そのこと自体はそれでいいと思うのですが、問題は、ちょっと私を感じた問題ということで聞いていただければいいのですが、まず最初によい影響を感じた割合、よくない影響を感じた割合について述べている。令和2年調査と本年調査の実感で、有意な変化があった属性ということで表が出ている。この表は、これはあくまでも令和2年よりは3年調査で有意な変化があった属性というだけで、別にコロナの影響かどうかは分からないはずなのです。ところが、こういう書き方をされると、ああ、コロナの影響でこの人たちが影響を受けたのねという印象を持たれてしまうのではないかなというところで、ちょっと私は危惧したというか、心配になったところです。だから、ちょっとこの表の出し方は工夫が必要かなと。

○吉野英岐部会長 それは具体的に言うと、例えば

○谷藤邦基委員 28 ページですね。

○吉野英岐部会長 28 ページから始まる一個一個の分野別のところの書き方ですね。まず、概況を言っていると。これはこのとおりだと。

○谷藤邦基委員 そうですね。またのところで、これをよく読めば、だから令和2年調査と令和3年調査の間で有意な変化があった属性についての表なのだということは、よく読めば分かるのですけれども、何げなく読んでいると、この表に載っかっている人たちがコロナの影響を受けたのだなと見えてしまうところがあるのです。しかも、表が出ていると、これ結構インパクトがあるので、そこはちょっと気をつけなければいけないなと思って見ていたところです。

だから、この辺をどういう出し方をすべきなのかというあたり。

○吉野英岐部会長 特に一斉にマイナスがばっと出てくると、これはコロナだろうというような見方を与えてしまうおそれはないかと。さらに、ウでコロナの分析をかけるから、ちょっとコロナとつながりが強くなり過ぎているかもしれないということですか。

○谷藤邦基委員 だから、これはあくまでも、例えば表の12というのは令和2年と令和3年の間で有意な差があった属性ということであって、ではそれとコロナがつながっていませんかということ、そこははっきりしたことは分かっていないわけですよ。だから、そのこのミスリードをいかに防ぐかという工夫はしなければいけないかなと。

○吉野英岐部会長 何かいい方法はありますか。
和川委員、どうぞ。

○和川央委員 私もここはちょっとミスリードなので、消してもいいのかなと思ってはいるのですけれども、どうしても載せるというのであれば、なお参考までに前年と比較をするとこんな感じでしたとあって、表も参考表とか、何かもうランクを下げたような形で出すのが一つの代替案だろうと。どうしても載せるというのであれば、代替案なのかなとは感じています。私もあるとすごくミスリードがあって、誤解を招くかなという懸念は、谷藤委員と同じ懸念を感じております。

以上です。

○吉野英岐部会長 はい、どうぞ。

○ティー・キャンヘーン委員 ちなみに、これは上がっています。下がっているのではなくて、逆な方で。

○谷藤邦基委員 上がっているのですね。

○ティー・キャンヘーン委員 逆の方です。

○和川央委員 そうですね。

○吉野英岐部会長 実感が。

○ティー・キャンヘーン委員 よくなっている。

○吉野英岐部会長 よくなっている。ここは低下したところを聞いているはずなのに、対前年比を見ると、表 12 は上がっているということ。そうすると、基準年と比べたら下がっているはずなのに、前年と比べると上がっているという。コロナの影響がよく出たと言えなくもないというのですか。そう読まれても仕方ないというところですか。

○谷藤邦基委員 その危険性はあるというか。ただ、私なりにちょっと思っているのはもう一点あって、要は基準年調査との比較、それから前年調査との比較という 2 つ比較しているわけですよね。前年調査との比較については、アのところで 1 回、なおで述べているのです。実は、ここの表 12 も前年調査の話だと思えば、この辺は前年調査の項目にしまっていて、ウを前年調査の項目にしまっていて、前年調査の内容をここでまとめて、新型コロナウイルスの話最後に付け足していくというような構成もありかなと思ったりはしていました。

○吉野英岐部会長 イの丸の2つ目が基準年調査との比較。

○谷藤邦基委員 ですから、アとイを基準年調査との比較に統一してしまっていて、アのなお書きのところは別途ウにするのか、②にするのか、②は別にあるからあれか。ちょっとそのこの項目の立て方はいろいろですけども、前年調査は前年調査でまとめてしまっていて、その中にコロナの影響も軽く触れる。

○吉野英岐部会長 ありやなしやと。つまりこの表タイトルがコロナと書くと、もうコロナの影響があるような形に読まれてしまうおそれがあるので、まずは基準年調査と比較してみました、次は前年調査と比較してみましたと、中立的な書きの方がミスリードは少ないのかなと。

○谷藤邦基委員 前年調査との比較の中で、コロナの影響についても含めると。

○吉野英岐部会長 そうすると、29ページの②はどんな感じ。別の項目ですか、これ。

○谷藤邦基委員 これも基本は基準年調査との比較ですよ。

○吉野英岐部会長 そうです。ここは基準年との比較。ただ、前年調査についてもちょっと下で述べているのですよね。ここが基準年と前年で、項目も分けてしまった方がいいのですか。

○谷藤邦基委員 だから、私のイメージとしては、基準年調査との比較がまず一つのまとまりとしてあって、前年調査との比較の話が次にあって、その中にコロナの話を入れると。あとは、一貫して低値、高値の話というような流れにすると。

○吉野英岐部会長 そうか、そうか。では、もう要因分析も基準年のところと前年のところで大きく分けてしまっていて、それはそのブロックでやってもらおうと。分かる。

○池田政策企画課特命課長 すみません。要因分析のところ、低下した要因のところについては、基本的には前年のはやっていないのです。低下した要因という整理については、あくまでも基準年のところだけで、前年のところはコロナのところに使っているだけなので、前年と基準年をそれぞれ分けるということになると、前年のものは基準年と同じような分析をするということになってしまう。

○谷藤邦基委員 前年調査との比較は、そんなに重点というか、重くやる必要はないと私は思っているのですが。

○吉野英岐部会長 和川委員。

○和川央委員 ②については、低下した要因というくくりになっていますので、ここに入っても、方法が違う場合にはここに入るとおかしいのですけれども、特に要因の中に含める議論なのであれば、前年比較も基準年比較も、ここに入ってきてても特段違和感はないかなど。ただ、低下しているのだけれども、前年からは上がっていますというのはここに入るとおかしいので、そのときは外に出すとかという議論はあるとは思いますが、低下した要因というくくりの中で議論できるのであれば、特段ここに入ってもおかしくはないかなという気はしております。

①の方は、基準年比較、属性とかときっちり分析手法から議論しているので、今の議論ではすごく違和感が出てくるのですが、②は要因というところで書いているので、それほど問題は起きないかなと個人的には感じます。

○吉野英岐部会長 これ、もう一回確認ですが、低下しているというのは、対基準年比で低下しているということが含意されているのでいいですね。

○池田政策企画課特命課長 はい。

○吉野英岐部会長 ついつい常識的な頭で見ると、去年より下がったのというように思われてしまうのは、本当はよくないのですよね。基準年から見て低下したということで、29ページの②はまず書かれていると。だから、やっぱり対前年比というのは、あくまで参考みたいな書き方が読み手にこっちの意図が伝わるのではないかというような。

○和川央委員 本当に最後になお書きで前年比較のことが出てきて、それがこの低下という中で収まるものであればそのまま収めてしまうし、それが全然方向が違うときには、ちょっと書き方は少し考えなければいけないかなというのは、新たな課題としては出てくると思うのですが。

○吉野英岐部会長 20年と比べて下がったと言っているのに、前年と比べては上がっているというところは、やっぱりそれなりの書き方をしないと。

○和川央委員 あと、逆のパターンもあるかもしれませんけれども。

○吉野英岐部会長 どっちなのだよと。

○和川央委員 はい。

○吉野英岐部会長 山田委員、どうぞ。

○山田佳奈委員 私も今おっしゃっていただいて、なるほどと思ったのですけれども、ふくそうしているというのですか、いろんな要素が。

○吉野英岐部会長 2地点、2つ比較しているから。

○山田佳奈委員 これは後で申し上げようと思ったのですけれども、書き方のところも含めてお話ししていいでしょうか。

○吉野英岐部会長 どうぞ、どうぞ。

○山田佳奈委員 28ページ目の一番上のタイトルのところに、2. 1、実感が低下した分野という、ここに明確に基準年との比較ということで、まず。
聞こえませんか。

○吉野英岐部会長 すみません。今ちょっと移動式マイクを。

○山田佳奈委員 聞こえますでしょうか。大丈夫ですか。

○吉野英岐部会長 では、もう一回最初からどうぞ。

○山田佳奈委員 では、もう一回行きます。

28ページの一番上のタイトル、これは2. 1、実感が低下した分野ということになっているのですが、これは全部、横ばいも上昇も全部同じですけれども、これは今年は増えているので、やはり基準年との比較という明記が必要かなといったところが1つです。

それで、今の委員の皆さんのお話聞いていますと、確かにあくまでも基準年との比較が主ですよということで、先ほどおっしゃったように、あくまで参考ということでしたら、参考ともう明記してしまった方が早いかなと。ですので、あくまでも基準の中の、例えば言い方としてはコラム的に入れておくということで、見やすさをちょっと担保するといいたまじょうか、ということがよろしいかなと思いました。

かつこれはちょっと中身の話にはなるのですけれども、コロナの影響ということは確かに今年少なくともディテールは言いにくいところがありますし、これまでの議論の中でもあったと思うのですが、やはりもう一年、二年たってみないと、何ともたどりようがないといえますか。そこはそれこそ先ほども出ましたように、竹村委員さんおっしゃっていました概要ですとか、そういうところにも、今後も云々は必要であるといった文言も必要になってくるのではないかなと。今回は、コロナの話ではあくまでも結果を事実として、こういう結果となりましたというところまでで、そこが重要ではないかなという感じがします。

○吉野英岐部会長 それがにじみ出るような書き方がいいのではないかと。

○山田佳奈委員 ええ。

あと、すみません、ついではなんですけれども、28ページの下の方のウのところのよい影響を感じた割合は8%、よくない影響を感じた割合60%という、これはほかの

ところも一緒なのですけれども、よい影響、ややよいと感じるという、多分両方合わせての8%ですね。

○吉野英岐部会長 ポジティブ。

○山田佳奈委員 そうですね。ここは、例えばほかのところですと、あまり感じない、感じないと回答した人という表記があるので、ここはよい影響、ややよいと感じた人と、ここはちょっと両方やはり書いた方がよろしいのではないかなと私としては感じています。つまり質問項目の中で、データの方でもよい影響を感じるという質問項目と、ややよい影響を感じるという項目がそもそも違っているのです、ここもやはりよくないの方も同様にややよくないと両方を入れた方がよろしいのかなと感じました。

まずは以上です。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

この28ページ、29ページ、30ページに書かれているところが全体のひな形になるので、この書き方を決めてしまえば、あとはそれぞれの分野別のところにそれは併せて適用すればいいということなので、まず形式について今議論をしていただいておりますけれども、そうですね、最後のところは合算値になっていますよということを書いた方がいいですよということですね。

○山田佳奈委員 はい。

○吉野英岐部会長 これ、ごめんなさい、表12で余暇の充実の実感について有意に変化があったというか、プラスの方だけ出てきましたけれども、これは対前年でマイナスはないのでしたか。

○池田政策企画課特命課長 20ページを御覧いただくと、一覧表があるので、一応ないという形です。

○吉野英岐部会長 ないですよ。これ不思議、一般感覚で見ると、よくない影響が60%と書いてあるのに、出てきた数値はプラスになっているというのは、間違いではないですかと言われそうな感じないですか。

○池田政策企画課特命課長 データなので、ちょっと

○吉野英岐部会長 そうなのだけれども、要するに文章の流れが逆説になるのですよね、ここ。60%もよくないと言っているのだったら、幾つかのところではマイナスに振れるものではないのかと。属性別に見て。この辺に特に影響が強く出たので、こういう人たちは結局やっぱりよくないと感じているし、実感も下がっているというようなストーリーだと、確かにそうだよなという感じがあるのですが、60%の人はよくないと言っているのだけ

ども、ちょっと有意なところを取り出してみると、この人たちは有意に上がっていますということなのですね。

ただ、やっぱり価値としては逆のことを言っているような気がするのです、意味としては。マイナスのことを言って、そうつないでくるのかなと言いたいところなのですからけれども、これが不思議や不思議、実感はプラスに振れている人たちがこの人たちですという。これは事実なので、このとおりで確かに何の作為もないのですけれども、読み手はやや何と取ったらいいのだろう、これをと思うかなという、これは少し参考、ここであまり悩んでいただいてもしょうがないので、実は。実態としては、基準年と比べて実感が低下したものの一つとして、余暇の充実を今回挙げてきたので、なぜ基準年と比べて低下しているのか、どういう人たちが低下しているのかがやっぱり低下という意味では伝えたいことの本質なのかなと思ったのです。

しかも、これかなりプラスに振れたので、下の表 12 ですね。これだけ見ると、やっぱりちょっと頭の中での理解のつながり方がなかなかアクロバティックな感じはしないでもない。入れてもいいけれども、こういう数値も出ていますぐらいの話なのかなと思いました、よく見ると。

実感が低下した要因というのが、やはり基本的には基準年と比べたところでのものが中心になっていくのですね。

○ティー・キャンヘーン委員 ということは、ウの新型コロナウイルスの影響というのはこう回答はあったものの、実感にそれほど影響はないと一言追加した方がいいというような。

○吉野英岐部会長 全体的な実感の低下に影響を与えているようには見えないというか。

○和川央委員 右側には、一定程度あったと書いてあるのですよね。

○吉野英岐部会長 まあね。

はい、どうぞ。

○池田政策企画課特命課長 今のストーリーの整理からすると、1つは余暇の充実のところであれば、一番最初が基準年で淡々と書いていって、参考として前年調査のまとめがあって、その次に新型コロナウイルスの感染症の影響という欄を設けて、そのところで60%となりましたということで、あとは実感については影響はあまりなかったという文言までを書いた上で、低下の要因の方ではコロナに特にここでは触れなくてもいいような形での整理をするというような整理を今想定されているという理解でよろしいですか。

推測されますのところ、1回終わるといって、この分野について終わるといって整理で、ここは確かに上がっていて、影響はなかったというのはなかなか若干苦しい思いが、担当としてはあったのですが、ここを入れたとしてもコロナの影響を疑うようなケースが出てきた場合の取扱いはどう書けばいいのかなというところを少しイメージをしたいなと思っていました。

○吉野英岐部会長 これは、さっき谷藤委員おっしゃったように、コロナの影響かどうか分からないのですよね。時期的には重なっているのだけれども、実感がプラスに振れたのがコロナの影響だというのはちょっと言いづらい。

○谷藤邦基委員 顕著な影響があるように見える場合以外は、もうそれに触れなくてもいいのではないですか。要するに、実感の変動要因という意味では。

○吉野英岐部会長 顕著に下がっているとか。

○谷藤邦基委員 何かそういういかにもと思えるもの以外は、淡々と調査結果としてこういうものがありましたというのは入れておいて、変動要因の説明にはあえて触れないと。

○吉野英岐部会長 ぐらいいいのではないかと。

○谷藤邦基委員 いいのではないかと思います。

○吉野英岐部会長 書くと、何かすごくあるみたいに見えるというか。

例えばこの表12も、職業と世帯構成とプラスで、しかも有意差あるのだけれども、サンプル数的には少ないのですよね、恐らく。

○谷藤邦基委員 そうでもない。

○吉野英岐部会長 世帯構成、その他、そんなにあるのでしたか。

○谷藤邦基委員 今回減ったのです。前回までは結構あったけれども、今回減ったのです。世帯構成のその他。

○吉野英岐部会長 Nが書いていないから、Nがよく分からないのだけれども。

○池田政策企画課特命課長 3ページ。

○吉野英岐部会長 3ページ。

○谷藤邦基委員 ちょっと余計な話ですけど、世帯構成のその他が前回までの独り暮らしより多かったのです、たしか。だから、この中身何だろうねとちょっと議論になって、その中身が分かるような調査表にしましょうということで、今回少し工夫していたはずなのです。

○吉野英岐部会長 はい。3ページ。

○谷藤邦基委員 3 ページはそれ書いていないね。

○吉野英岐部会長 世帯構成はない。

○池田政策企画課特命課長 載せているのは、県民意識調査結果の速報版なので。

○吉野英岐部会長 職業が学生プラスその他で、でも 68 と 51 を足せばいいのかな、これ。

○池田政策企画課特命課長 そうですね。

○吉野英岐部会長 そうすると、120 ぐらいでしょう。

○池田政策企画課特命課長 119 ですね。

○吉野英岐部会長 119 でしょう。そんなに多いとも思えないのだ、119 のサンプルというのは。それをもってして、県全体の学生やその他を言っているかということ、119 だとちょっと少ないという。そういう意味では、有意に増えているのだけれども、やっぱりクロス集計したあるところの数だけ取っているの、すごくそのサンプル数が多いところと比べるとやや不安という気が。それは、やっぱり今谷藤委員おっしゃったように、多いということを言いたいわけではないですよという、そのレポートの中で。

○谷藤邦基委員 だから、例えばそこの表の扱いですけれども、28 ページ、要は基準年調査の比較のところでも出てくる表と趣旨は一緒の表なのですよね。だから、そこはあくまでも前年調査の比較というくくりの中で扱えばいい表だと思うのです。だから、その中でコロナの影響については若干事実だけを触れるように。

○吉野英岐部会長 こうでしたと。

○谷藤邦基委員 もしコメントつけるのであれば、回答者は多いけれども、実感にはさほどの影響は与えていないというような趣旨のものを付け加えるぐらいではないですか。

○吉野英岐部会長 それは、基準年との比較の分析が全部終わった後にやるべきだと。

○谷藤邦基委員 終わった後にやったらいいのではないかなと思うのです。でも、さっき実は・・・

○若菜千穂副部会長 すみません。ごめんなさい、なかなか入れないので。

○吉野英岐部会長 どうぞ、どうぞ。

切れた。向こうのスピーカーが落ちている。すみません、若菜さんの声が聞こえなかったです。というか、今聞こえなくなっていました。

竹村先生と若菜先生の間では聞こえているのですか。

○竹村祥子委員 はい。

○吉野英岐部会長 竹村先生の声はこっちに聞こえています。若菜さんの声も

○若菜千穂副部会長 聞こえますか。

○吉野英岐部会長 直った、直った。

どうぞ。

○若菜千穂副部会長 声、聞こえますか。

○吉野英岐部会長 急に聞こえるようになりました。

○若菜千穂副部会長 すみません。私も谷藤委員の意見とほとんど一緒に、この28ページの下ですよ、ウのところなのですけれども、割合は60%となりました。またのところ、この前年度比較は、調査がそもそも違うものなのを、やっぱりこうぐちゅっとしているのは、ちょっと論理の飛躍があり過ぎるかなと。コロナに関するアンケートの結果を言った上で、前年度比較、余暇についてというのは、やっぱり結びつけて考えられないと思うので、ここはちょっと論理の飛躍があり過ぎると思うので、普通に「また」以降は削除してもいいのではないかなという。

○吉野英岐部会長 なるほど。

○若菜千穂副部会長 28 ページの下の方の「また」以降ですよ。

○吉野英岐部会長 表も含めて要らない。

○若菜千穂副部会長 表 12 も含めてですね。これ、ちょっとやっぱり論理の展開に無理がある気がします。同じ意見ということです。

○吉野英岐部会長 分かりました。新型コロナの影響かどうか分からないけれども、対前年度比較の結果ではあるのですよね。

はい、どうぞ。

○ティー・キャンヘーン委員 この前の議論で、対基準年だけでは済まないでしょうとい

うことで、対前年も入れたのです。ということは、コロナの影響ではないので、表の位置を上を持っていくと、下げてもいいのですけれども、全部述べた後に、ちなみに対前年はこういうこととでもいいのですが、このウの方は、そのまま「また」より前を残しておくような感じでいいのではないですか。

それで、結局これはいい方に振れてしまったので、いい方に振れたがために、②の「なお」というところはちょっとおかしくなると。

○吉野英岐部会長 最後の丸ポツね。

○ティー・キャンヘーン委員 はい。

○吉野英岐部会長 前年に比べて横ばいと。

○ティー・キャンヘーン委員 横ばいなものだけれども、一定の影響があったというのは、いい方に動いてしまったがためにちょっと何か変になるので、そこは要らないかなと。

○吉野英岐部会長 分かりました。

何か影響があったとは思いますが、非常に解釈が難しいですね、ここ。何か対前年比というのを一応全部調べましたということが大事であって、調べまして、コロナの影響については、いい、悪いはこのパーセントでしたと。

○ティー・キャンヘーン委員 ④をつけて、コロナの影響があったものではこういうものだと、付け足しみたいでもいいのではないかと、参考程度に。

○吉野英岐部会長 というようなめり張りですかね。基準年調査は基準年調査で、1回も全部閉じてしまって、対前年調査は前年調査で、参考までに前年調査との比較もしたところ、こういう結果でしたというぐらいですか。解釈は特に要らないという。どうでしょう。

○池田政策企画課特命課長 余暇のところはそれでいいと思うのですけれども、例えばそもそもこのところで言いたいのは、コロナの影響で下がったということを断定したいということよりは、その前年に比べて下がっているのか、コロナの影響があったのではないかとこの視点がここで入り得るのか、入り得ないのかというところの議論かなと僕は思っていたのです。なので、コロナと言えないから削るという議論をしていただくということになってしまうと、もう1かゼロかになってしまうような感じがしてしまっていて、そういうところよりは、むしろいろんな状況を踏まえてコロナの影響があったのかなかったのかというようなところを念頭に置いて御意見をいただけたらいいのかなと一つ思っているというのが1点と、あとは仮に影響が見られるのではないかとということになったときに、例えばつながりなんかは去年に比べてもさらに下がっているというようなところを、ではどう見ていくのか。

今のところだと、コロナの影響のところを見るファクターというのは、多分何をもって影響があった、なかったかと、どうお話をするのだろうか。単純に去年に比べて上がってれば、それはいいと思うのですけれども、去年に比べて下がっているものに対して、ではどのように見ていかれるのがよろしいのかなというのがちょっと分からないと、これから文章を作っていくのが難しいかなと。

○吉野英岐部会長 例えば次の29ページの下から始まる地域社会とのつながりを見れば、全部どの属性見ても下がっているし、対前年比で見ても、表15を見ればやっぱりかなり下がっている属性がそれなりにありますよと。だから、ここをコロナの影響と言ってしまいか、実は経年的なものがそもそもあって、だんだん、だんだん下がっている、漸減傾向がある中での下がりとして解釈すべきなのか、それともコロナの影響が特段ぼんと及んで、大幅に下げたのかということを見ると、数字の割合自体は、実は0.6とかぐらい下がってしまったとしたら、相当な影響かなと。0.1とか0.2あたりのレベルで見ると、それは基準年比較と見ても、そんなに大きな差がないのですよね、落ち方が。だから、かなり特異な落ち方をしたとも見えないと。落ちたは落ちたけれども。だから、コロナの影響もあるだろうし、これまでのずっと落ちてきた傾向的な影響もそのまま残っているかもしれないかなと今思ったのです。

だから、コロナの影響がある可能性があるとして書いてしまうと、それは可能性ではなくて、そうだよと読まれないかなというのがちょっと心配。対前年と比べても落ちているというのは、こういう属性でしたと。そこから先は、それがコロナの影響かどうかについては、実はもう一年見ないと分からないかもしれないしというぐらいで止めておくぐらいかなと。

一定程度の影響があったと書いたときに、ではどの程度なのだとと言われても、ちょっと分からないとも加えられるかなと。つまりどうしても読み手の中では、コロナというのはいろんな悪い影響を及ぼしているのではないかなという考え方をお持ちの人がやっぱり読み手の中にならいるのかなと。これは確かにそうだと読まれてしまうのも、実はまだ私たちそこまでは十分に分析するデータを持ち合わせていないとしか言えない。でも、そう書いてあるのではないと言われると、そういう影響もないとは言えないというぐらいのものなのですけれどもねということをうまく伝えるためには、あまり書き込まない方がいいかなと。そういう具合でいいですか。

○池田政策企画課特命課長 すみません。結論的に、ここはどのような記載になるのか。

○吉野英岐部会長 谷藤委員がおっしゃったとおり、基準年との比較をまずやると。基準年との比較で、ちゃんとというか落ちているのがこの属性でありましたと。それはそれで1つまとめておいて、後半で対前年比較もやってみましたと。対前年比較でも落ちているのはこの辺でしたと。因果関係は分からないのですけれども、コロナの影響、よい影響、悪い影響を見たところ、数字はこうでしたと。そこから先はあまり書かない。

○ティー・キャンヘン委員 全体的に、要するにこのレポートにおいて、②においてコロナに触れないでよろしいですか。よろしければ、多分全部削るでよろしいですか、池

田さん、どう思う。

○池田政策企画課特命課長 そうではなくて、皆さんちょっといろんなイメージがあるように聞こえてくるのですが、私どものイメージとしてさっき確認したように、基本的には基準年のものが、基準年と比較して属性別までやって、参考として前年比較を同じようにやって、次に新型コロナウイルス感染症の影響というものが来て、②がその後に来て、コロナのところは影響があれば書くけれども、基本的になければ書かないというスタンスでやるものだと思っているのですけれども、ただ新型コロナウイルス感染症の影響のところの書きぶりが、今の書きぶりだと影響があると言えるのかなという記述内容が、実際データとして根拠で書けるのは、この影響の割合のところだけで、前後の調査を踏まえてどう解釈するかという部分が入らないのであれば、ここの新型コロナウイルス感染症の影響があった、なかったというのはそもそも考えられるのか、ちょっと書きづらいというのは今の部会でのお話でどうしようもなくなってしまうのだろうかというか。

○吉野英岐部会長 はい。

○谷藤邦基委員 あまり議論を紛糾させるとまずいなと思って、ちょっと控えていたのですが、私のイメージということで改めて申し上げますと、基準年比較との調査分析をまずやると。その場合、例えばアのところで分野別実感の推移ということで数値のことも言っていますよね。そのななお書きのところで、前年との比較の話も1回入れているでしょう。これまず取ってしまっって、ウのところを前年調査との比較という趣旨の項目にして、前年調査との比較の前のななお書きのところの数字持ってきて、「また」から表15の辺りのところ、あるいは30ページから31ページのところに行っています。「また」というあたりでは有意な変化があった属性、もっと話を持ってきて、最後に新型コロナの影響について調査したところ、よい影響を感じた割合は6%、よくない影響を感じた割合は52%、そういうのもありましたというのを最後に付け加えておくだけにすると。要するに新型コロナウイルス感染症の影響という項目立てはしないというのが私のイメージです。

○吉野英岐部会長 この分野別実感が低下している要因はどこに置きますか。31ページの②に当たるようなところ。これは前年の言及より前。

○谷藤邦基委員 それは、後ろに来ていても別に構わないと思いますけれども。

○ティー・キャンヘーン委員 基準年を定義するだけですよね。

○谷藤邦基委員 だから、あくまでも基準年調査との比較が原則的な分析の目的であるところを明記した上で、前年との比較というのはあくまでも参考程度のものと、そういう位置づけでいいのではないかというのが私の理解というか、考えなのですけれども。

○吉野英岐部会長 前年との比較の記述は、各ブロックの一番最後に書くでもなくて、そ

れを真ん中にあっただけがいい。

○谷藤邦基委員 最後まで、別にそれは構わないと思います。

○ティー・キャンヘーン委員 だから、最後までよくて、最後にコロナについても聞いてみたのだけれども、この結果ですと締める。それについて述べないという感じでは。それはそれで。

○吉野英岐部会長 つまり今後また今年作って来年も作るとなると、だんだん比較する年度が増えてきてしまうのです。今はまだ基準年と対前年の2つでいいけれども、厳密に言えば3つ比較、対前年とか対前年とかというのが増えてくると、では一体この主眼はどれなのだといったら、やっぱり基本は基準年との比較を主眼に置くけれども、参考とかいう意味で前年や前々比のことも見てみますよということ。

○ティー・キャンヘーン委員 対前年でいいのではないですか。対前々年で比較すると、何か変になりませんか。毎回毎回対前年見てみるみたいなのでいいのではないですか。対前々年だと、ちょっと何か発散してしまっ。

○吉野英岐部会長 常に短期的な変動も見てはみますよと。ただし、一応オーソドックスというか、ベーシックで見ると、基準年との比較を基本は見ていくのがスタンスとしてはありますというようなことが伝わるようになっていけばいいと。

○ティー・キャンヘーン委員 どうですか。

○吉野英岐部会長 私もそれでもいいかな。書いていることの中身についていじくっているわけではないので、順番を。

○谷藤邦基委員 構成の問題です。

○池田政策企画課特命課長 事務局側のイメージとしては、基本的に前年調査をするということは、コロナを見るためにやっていたのですけれども、当初は。基本的に今までの整理として、令和元年の部会において分析をするときは、基準年と現年調査をやりましょうという話だったと認識しているので、今年も実はそれをやるつもりだったのですけれども、新型コロナの影響という設問があったので、前年調査との比較を入れたという形になるのです。なので、このレポートでそういう作りに今のところなっています。

今のお話を聞くと、基本的には基準年との長期的なトレンドの中でどういう変動を見ていこうかという考え方に加えて、短期的な調査をするのだという趣旨で、昨年との調査をやったのだとレポートを書き換えるという趣旨の議論に今なっていて、結果コロナの影響については、言葉は悪いですがけれども、議論しないというように、ちょっと見えて、いわゆる結果だけ書きました。でも、それについて一切言及しませんということになると、

何となく、うちとしても取扱いがなかなか難しいなど。確かにコロナの影響をずばっと言えないというのはそのとおりだとは当然理解はしているのですが、そのところに例えば解釈的な部分が入り込む余地が全くないのかどうなのか。もう全てが同じような記載になったときに、コロナの影響というものがこの分野ではある程度多少なりともあったのではないかとというようなところが入ってくることはないという。

○吉野英岐部会長 それをやるのだったら、コロナの影響があったという人だけを取り出して、その人たちが本当に下がっているか検証しなければいけないのです。今回割合でやっているから、全体で60%がコロナの影響があると答えているけれども、その人たちだけピンポイントで取り出して、その人たちはやっぱり大幅に下がっているというのであれば、それはかなり可能性高い層だなと思うけれども、ちょっとそこまで分析踏み込んでいないのです。

○池田政策企画課特命課長 以前お出ししているように、コロナの実感とその人たちの実感の上昇、低下のところは、全部リストとしては整理はされているので。

○吉野英岐部会長 でも、書いていないから。

○池田政策企画課特命課長 そうすると、それを出せば。

○吉野英岐部会長 言いたいなら、それを出して、やはりデータで説得しないと。

○池田政策企画課特命課長 それは趣旨としては分かるので、議論としてそれをやるかやらないかという議論なのですけれども、データとしては恐らくお出しできるだろうと。

○吉野英岐部会長 だけれども、例えば事務局としては入れたいということだから、コロナの影響をうまく言及したいと。それを生かすのであれば、それを確実に言えるようなデータも併せてつけないと。

○池田政策企画課特命課長 もちろんです。

○吉野英岐部会長 そうすると、構成ももっと膨らみますけれども、結局そうすると基準年比較と対前年、コロナ分析がかなり同じぐらいの分量を持つてくることになるのではないかなと。そうすると、両方の目的を今年、特に令和3年の調査を踏まえてやったのは、両方の目的を見るためのレポートになりますよぐらいの、もう本当にそういうスタンスで作りますよというぐらいのものになって、分量も増えるけれども、コロナのことはちゃんと分析をして、一定の結果の解釈まで出すというのだったら、それは事務局側だと言えば、それは議論しなければいけないです。

ただ、そうすると、本当にもうやってあるというようなデータを作ればいいだけなのですけれども、コロナの影響はよくないと答えた人だけをどう見るかなのです。ただ、それ

でもプラスに振れているところがもしあると、非常に全体の解釈が難しくなって、悪いと言っているのにプラスになっている人がこれだけいる場合、そこは見なかったことにするというわけにはいかないで、その整合性が難しい。全面的にみんな悪く振れているのだと、これはかなりだなという気はするのですけれども、ちょっとそこが心配。

それから、例えば収入所得というの、実態は悪い影響だと答えた人はいるのだけれども、実感平均値は上がっているのですよね。この解釈は本当に難しく、あまり突っ込んでやるとコロナ分析だけになってしまう可能性があるんで、確かにこういう数値は出ていますよ。ただ、これはコロナの影響があって実感が上がったとは言えないですよ、やっぱり。

○ティー・キャンヘーン委員 それはそうだね。

○吉野英岐部会長 だけれども、実際実感が上がったのは確かなので、そうするとここは何か1つ、2つパラメーターを入れないと、ちょっと聞いている方は納得しないというか。コロナの分析をしたいのか、実感が上がっている分析をしたいのかと、どちらですかと言われなかなど。

○池田政策企画課特命課長 あくまでも実感が下がった要因を知りたいというスタンスは変わりありません。あとは、ここにコロナというファクターが少しでも入ってくればいいというのが事務局側の希望としてはあったので、そのところの見せ方をどのようにしていくのかなというところでは思ったのですが、今のお話を聞いていると、やっぱり分析種目が何となくコロナと全面的に見出しをちょっと打てないかなという感じがするのですけれども、そういう理解でいいですか。

○和川央委員 取るという意味ですね。

○池田政策企画課特命課長 取るという。

○和川央委員 私が言うのもなんですが。

○吉野英岐部会長 はい、どうぞ。

○和川央委員 ちょっと今のお話を少し自分の中で整理をしたのですけれども、去年パネル調査の設計をするとき、そして今回冒頭、部会できるとき、コロナの分析が目的ではないですよ、パネル調査もないですよ、あくまでも低下する要因を議論しますと。その中にコロナが入ってくるのであれば、それは取り込みましょうよということでパネル調査も設計し、今回の部会もスタートしたのではなかったかなと思っていますので、そういった意味で僕今私は吉野先生がおっしゃったとおりでいいかなと思います。

それを踏まえると、最後に言おうと思ったのですが、冒頭、今回2ページ目で追加になっていたコロナウイルス影響の検討というのは、これは目的ではなかったのではなかった

のではなかったかなと思っていますので、私はそこは削除しても、丸の3つ目ですか、削除するか、あるいはその過程でこういうのも検討しましたという程度の補足的な話でよろしいのではないのかなと私も思います。

○吉野英岐部会長 どうぞ、事務局。

○池田政策企画課特命課長 むしろここは取るというよりは、ここが置き換わると思っていて、令和2年と令和3年の比較という言葉として入ってきて、そこにコロナという言葉を入れるか入れないか、入れなくてもいいのではないのかなとちょっと思っているのです。

○和川央委員 17ページのところも、結構コロナの影響をがつつり検討しましたという書き込みがぼんと来ているのですが、ここなんかもほぼ見えなくなるような状態になるべきではないかなと、今の議論を踏まえると感じます。

○吉野英岐部会長 あくまで対前年比較をした中で、コロナの影響もそれはあるでしょうと。だから、やりましたよということですね、前年比較。

○池田政策企画課特命課長 そうです。その中で必然的にコロナの影響も一応見たというような形での整理したいという。

○吉野英岐部会長 多様な回答パターンがあるので、一概にというのはちょっと言いづらい。

○池田政策企画課特命課長 もう一点なのですが、そうすると構成としては分かりました。そのように修正をしたいと思います。

補足調査のコロナの部分の自由記載と、あとすみません、ワークショップの中で出てくるコメントを入れていくことにはなると思うのですが、ワークショップの方は多分実感が低下した要因としての定義の中に入れる、それは問題ないと思うのですが、補足調査の自由記載のところというのは、ここでは使わない、使えないということになるような理解ですね。前年比較でコロナの影響としか書かないので、60%となりましたで終わりということになれば、例えばそのところで、余暇だったらイベントの中止がとかがあってこういうのが出てきたのだというのをこのパーセンテージの説明に使うというようなイメージであれば、もしかして使えるのかもしれない。前は、一定程度の影響があって、それはイベントの中止とか、そういったものがあつたからですということを想定していたのですが、むしろこうなってくると、一番最後の最終意見を上げようとする、影響について回答があつて、あまりよくない影響があると感じた人が60%いて、それはこう言ったようなことが考えられるみたいな、そういう書きぶりを想定するような形でよろしいかどうか。もしくはそれも要らなくて、何%でしたとやってしまうというようなイメージなのか、ちょっと最終的なレポートの出来上がりのイメージを確認させていただきたいなと思います。

○吉野英岐部会長 どうぞ、山田委員。

○山田佳奈委員 今おっしゃっていただいた自由記載のコメントのところ、私もどうしようかなと。どうしようかなといえますか、ちょっと私も悩んでいたところなのですけれども、例えば今お話あった16、17ページの分析結果の分析方法のところ、例えば自由記載も見ながら、参考にしながら解釈を、あるいは分析を行いました、といったことが一つ入った方がいいのか。つまり自由記載欄を活用するとなれば、またちょっと違う分析が必要になるので、解釈という方法の方に一言入れた方がいいのかなと思っていましたのですけれども。ただそうすると今のをもしかなり削るとなると、何%でしたということになると、それも必要なくなってしまうといえますか。ではその解釈したのはどこに行ったのということにもなってしまうので、ここはこの部会で今回どこまでコロナウイルスについて検討しましたということを使うかどうか、私個人的には最初か最後かには一言はやっぱり入れた方が、と。

○吉野英岐部会長 参考とか。取っているからね。答えを書いていたっているからね。

○山田佳奈委員 そうですね。

○吉野英岐部会長 全く無視するというのは、確かにちょっと。前回のレポートでは、自由記載使っていましたか。去年は。

○池田政策企画課特命課長 具体的に書いているのはないです。

○吉野英岐部会長 あまり使っていない。直接はレポートの中で言及しなかった。

○池田政策企画課特命課長 そうですね、御議論の中では。

○吉野英岐部会長 あるいは、参考資料では使ったのかもしれない。

参考資料かな。あまりたくさん載せなくてもいいかなと思いますけれども、本体の方には。参考資料はあるのですよね。

○池田政策企画課特命課長 はい。

○吉野英岐部会長 このように。

○池田政策企画課特命課長 まさにその部分をどう参考資料に入れようか、入れないか悩んでいます。当然割合の結果は載せようとは思うのですがすけれども、自由記載のところには、あのおり結構なページ数になるので、それをただずらっと載せるのもなかなか難しいところもあるということもございまして、逆に使わないということであれば、その結果だけを載せるというやり方。

○若菜千穂副部長 すみません。ちょっと聞き取りにくいですが、今のお話。

○吉野英岐部会長 では、もう一回、すみません、今のもう一回。

○池田政策企画課特命課長 補足調査の自由記載のところにつきましては、かなりページ数もあると。あとは、区分も事務局のある程度感覚というか、そういったところで振り分けているところもございますので、見せ方とすると、使わないのであれば自由記載のところは特に載せないで、参考資料添付というのをイメージはしていました。

○吉野英岐部会長 ほかの委員の皆さん、いかがですか。報告書の構成の問題ではありませんけれども。

よくない影響の中身としては、こういうのですよという感じの自由記載が多いですか。

○池田政策企画課特命課長 そうですね。補足調査は、コロナの影響とか、ほとんどがやっぱり健康とか、収入の部分、お仕事なくなったとか。

○吉野英岐部会長 例えば収入が減ったとか、仕事なくなったというのは、それはありますよね。

○池田政策企画課特命課長 イベントに行けなくなったとかというような記載がたくさん並んでいるという状態です。

○吉野英岐部会長 こんなこと言ったら悪いですがけれども、コロナの影響で特別給付金が入って助かったというような記載もあるのですか。

○池田政策企画課特命課長 そのようなダイレクトな記載は。

○吉野英岐部会長 そんなことを書く方は、あまりいらっしゃらないと。

○池田政策企画課特命課長 はい。どちらかという、給料が減ったという方はありますけれども、増えたというのは。プラスの方とすると、家族と過ごす時間が増えたとか、健康に気を遣うようになったとか、そういうところでのポジティブな要素はあったと思います。

○吉野英岐部会長 何をお書きになるかは本人の自由なので、これ書いてくださいとか言えないはずなので、それは全然構わないのですけれども、事実関係を分析したときに、さっき言った収入所得の実感が下がっていないのですね、全体で見ると。では、それは何で下がらないのだろうかという話をここでしたときに、それは例えば自由記載を幾ら読んでも恐らく分からないと。自由記載を読む限りにおいては、書かれていないかもしれないけ

れども、事実として特別給付金があったことは確かだろうと。やっぱりそういった政策的な下支えが、上がったまではちょっと説明しづらいのですけれども、大幅な下げを防いだ可能性はあるとまでは書けると思うのですけれども、それが県民がそう言っているのかと言われると、自由記載を見る限りでは、それは書いていないというところですね。

ただ、自由記載を書くのはいいのだけれども、それをあまり前に出したときは、何か引っ張られてしまう。参考資料としては当然載せるべきだと。

○池田政策企画課特命課長 そうですね。去年の議論としてあったのは、レポートとして実感が下がったところの具体的な例示になったのも入れていった方がいいのではないかとというのが1つあって、それに合わせて新型コロナのところも来年意見を聞いたときに、その具体性を出せるように自由記載をしましょうねという議論はあったと理解していて、なのでそれがあると何となく全体的なところにある程度具体例が入ってくるのかなと思ってはいたのですが、今回コロナのところも触れないとなると、恐らくワークショップで出てくるものとしてはつながりの部分と所得の部分なのですけれども、そこだけ具体的な事例のところの表現をするのかということ、かなりバランスを欠く感じになってくるので、解釈とするとそこも今後どうしていったらいいのかなというのが、最終形が分からなくなったと、先ほどちょっと、ではそちらのところの取扱いどうされるのですかというところだったのですけれども。

○吉野英岐部会長 山田委員、どうぞ。

○山田佳奈委員 すみません。私理解追いついていなかったら申し訳ないのですけれども、先ほど例えばこちらの例でいくと28ページ、29ページですか、その構成のところ、もし前年の比較という何らかの項目を設けるのであれば、その中で自由記載、今池田さんからおっしゃっていただきました自由記載で、例えばということで幾つか、場合によってはプラス、マイナスのご意見をそれぞれ出すということはないかなとは思いますが。ただ、一般化ということにはならない、ということではありますけれども。ただ、これは個人的な意見ですけれども、多分第1回から申し上げているとおり、例えば収入にしても、影響がなかったという方は4分の1ぐらいいらっしゃいます。アンケートで見ても、コロナの影響はなかったという方は約4分の1いらして、よくない影響があった方もいらっしゃるし、ひょっとすると上がっている方もいらっしゃるかもしれない。今回は特に個別事情の幅があると思いますので、その意味では、確たる原因というのは言えないが、こういう御意見もありました、というところが限界かなという気がしています。吉野先生おっしゃったとおり、自由記載のところをせっかく書いていただいていますし。どのようにピックアップするか、ということはあると思いますけれども。

○吉野英岐部会長 若菜先生、どうぞ。

○若菜千穂副部会長 聞こえますか。

○吉野英岐部会長 私は聞こえますが。

○若菜千穂副部会長 私は、基本的に補足調査の自由意見は触れた方がいいと、私が報告書を書くのであれば触れます。ただ、当然自由意見全部は抜き出せないで、そこで抜き出した人のバイアスがかかるでしょうということで、県の白書風なあれではあまりづらいなという気持ちも分かるので、そこは県の判断にお任せしますが、なんのための補足調査課ということであれば、私は多かったような意見とか、こうだろうなみたいなところを補足調査の自由意見で代弁させるという感じで入れた方がいいと思っています。

もう一つなのですけれども、ワークショップの方をやっている側として、ワークショップで出た意見と補足調査の自由意見、どっちが信憑性が高いかという、絶対補足調査の自由意見の方が信憑性が高いです。アンケート、あとワークショップも、別に余暇が上がったでしたか、今回は違うか。必要な収入や所得でしたか。その人たち、上がったと思った人たちを集めて、どうして上がったのですかというワークショップでは基本的にないので、ほとんどワークショップで出てきた意見を入れるということなのですけれども、その人たちの意見の多分大半以上が想像なのです。例えば県南で上がったね、それはこうだから上がったのではないかという、その人の実感ではない意見が、多分 100 あったら 90 ぐらいはそうなので、どちらが信頼性があるかというのは、補足調査の方の回答だということは、ワークショップしている側としてちょっとコメントはしておきたいなと思います。

以上です。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

竹村先生はいかがですか。

○竹村祥子委員 どの意見もなるほどというか、そうだよなという感じもあるのですけれども、上がった、下がったの問題の前に、余暇時間については基準年もばらけているし、特に職業と年齢については元がばらけているのです。そのばらけ方が、結局令和3年のところでは極端化したと見えるのです。なので、上がった人がいる、下がった人がいるといったときに、ちょうど29ページのところに上がっている職業と、あと世帯構成、年齢もそうかもしれませんけれども、ここが一番分けたなと思っていて、このばらけているということをどこか一言入れておいた方がいいのではないかと思います。理由については、それぞれ上がった人には上がった理由、下がった人には下がった理由みたいなことで、ちょっと收拾効かないだろうなという感じを受けているので、ばらけているの方を入れておいたらいかがかという提案です。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

それも記述できればしていただきたいということですね、本文の中に。ミュートなので、竹村先生の声がこっちに聞こえないのですけれども。本文の中で触れた方がいいということでもよろしいですか。本文の中で、ばらけていると、偏差があることを触れた方がいいということでもいいですか。

○**竹村祥子委員** 結局意味が分からないということも確かにあるのだけれども、影響を受けたということは、要は3年のところではばらけ方が極端になったわけだから、そのばらけたということを入れておくのがいいのではないかと思うのです。

○**吉野英岐部会長** その影響の中身についても触れた方がいいということですか。

○**竹村祥子委員** 影響の中身は解釈なので、今の話だとすると分からないわけですよということだから、こういうことが理由でしょうということまで今委員の間でもたくさん出たわけだと思うのです。なので、その部分が分からないと書くのではなくて、どうも職業と世帯構成のようなところでは、プラスに働く人とマイナスに働く人というふうな実感に極端に逆向きのことが出た、要はばらけたということを書いておくのがいいのではないかと。

○**吉野英岐部会長** 池田さん、分かる。

○**池田政策企画課特命課長** すみません、どう書いていいのかちょっと分からないので、後で。

○**吉野英岐部会長** こう書いてくれというのを見せてもらえれば。

○**池田政策企画課特命課長** それで、一個一個多分解釈をしていかなければいけない感じの話にも聞こえるので、後で御指導をいただきながら。

○**竹村祥子委員** 分かりました。

○**吉野英岐部会長** では、それはコメントしてください。

全体的には、実感が低下した分野が、少しあれですけれども、28ページから並んでいて、最初の余暇の充実の実感のところは低下しているのだけれども、対前年比で見ると上がっているところがちょっと表12みたいなところがありますよということですね。

それから、地域とのつながりについては、ほぼ全面落ちているので、これは比較的説明がそう難しくはないだろうなと思います。

それから、その次の31ページから始まる地域の安全を見ると、基準年から見ると落ちているところが結構見えるのですが、表17の対前年を見ると、むしろ上がっているところも結構あったりして、コロナのよくない影響を感じる人は44%だから、ほかよりも少ないのかもしれないのだけれども、前年比でかなり上がっているということはどう見るかというとなかなか難しいな、これという感じもちょっとあります。

それから、歴史・文化については、基準年も前年比も、34ページですか、下がっている項目が多いので、これについては先ほど補足の数値も出してもらいましたがけれども、所属階層でも見たのだけれども、はっきりしたことまではまだ言えていないということなので、コロナの影響でというのも、出歩かなくなったというのものもあるかもしれないのだけ

れども、なかなかすばっとは分からないということですよ。

一方で、実感が上昇したものをもう一回見てみますと、35 ページからで、心身の健康については基準年に比べるとプラスで動くのだけれども、前年比で見ればマイナスなのです。36 ページですね。これは恐らくコロナの影響がこっち側に出ている可能性はあるので、これについてはそんなに難しくはないかもしれないけれども、基準年が低過ぎたかもしれないと。

でも、子育てなんかは、38 ページは、基準年についても上がっていますし、対前年のところでも上がっているのですね、これ。多くの属性で上がったように見える。実際有意差だから、上がっていると。ここも確かにコロナのよくない影響の割合は 41%なので、他の領域に比べればよくない影響を抱えている人はそんなにたくさんはないのかもしれない。ただ、だからといってそれが上げる要因かという、ちょっとそれはよく分からなくて、子育てについてはプラスのところが多いと。

次の子供の教育についても、40 ページについても、基準年に比べては上がっているし、対前年比で見ても上がっている項目が結構ありますよ。コロナの影響というのは、45%程度はよくない影響があったと答えていますので、結構な、ほかに比べれば少ないのかもしれないけれども、4割ぐらいの人はよくない影響だと言っているのだけれども、属性別に見るとかなり上がっていますよねというものがあったり、最後の必要な収入所得、42 ページも基準年に比べれば上がっているし、対前年比で見ても多くの属性で上がっています。ここを新型コロナのよくない影響を感じたのが 48%で、5割近くの人がよくない影響だと答えていると見ると、やっぱり5割近くの人が悪い、よくないと言っているのに、ほぼ全面高になるのは、何か別の要因を出してこない限り、ちょっとこれを説明するのは難しいということもあったので、繰り返しになりますけれども、コロナの影響を見ているのはこのとおりちゃんと見ているので、事実関係を出すのは、これは当然間違いないということでもあります。

ただし、分析の主眼は、基準年との比較でまずは一つ片をつけて、その後で対前年の動向を見た上で、それに対してコロナがどう影響しているのかをあるかないかは入れてもいいかなと。

ただし、そこで説明の難しい分野については、例えば自由回答のところを持ってきて、きつこういう答えがあったので、それがこういう結果を生んでいるのではないかと言いたいのですけれども、さっき例えば特別給付金があったのではないかと我々が解釈しているところもあるのだけれども、それを自由回答で書いてくれないと、ほぼエビデンスがないのですよね、そっちの人たちに対しては。ただ、特別給付金があったことは事実で、お金が各世帯に実際に入ったのも事実だろうと。ただ、その評価を直接聞いていないので、それが家計に対して、実感に対してどういう影響があったかというのは、あくまで推測することしか今のところできないかなと。

もうちょっとこれを長く見ていけば、特別給付金が今回ないので、令和3年は。そうしたら、やっぱりそれがなくなると下がるというのだったら、話が今度は少し分かりやすくなるので、コロナの影響についてはやはりもうちょっと見ていく必要が私自身はあるのかなと。だから、コロナの影響で書くよりは対前年比でと、やっぱりあくまで押した方がミスリードをできる限り少なくできるかなと思いました。

あくまで横ばいについては、これもたくさん書いてもらっているのですけれども、横ばいをたくさん分析するというのは難しいだろうということなので、このとおりでもいいのですけれども、ここはさらっと書いてもいいかなと。

あと、最後にまとめがあつて、まとめが51ページから56ページまであります。5ページちょっと。なので、確かにこれ全部読んでくれればお話は分かりますよということなのですが、冒頭谷藤委員から御提案があつたようなゼネラルサマリーというか、まず今年言いたいことはここですよということを頭につけていくのも、だんだん情報量が増えていく中ではやってもいいのかなと。それは概要版とは別で、レポートの中のサマリー、要約というものをやってみた方が読みやすくなるかなということですが、各分野のところについてのまとめ方については、今御意見いただいた様々な意見がありますので、構成についてはちょっと変化をつけてみて、こんな感じでどうかというのを改めて出させていただく時間はまだあるのでしょうか、大丈夫。

○池田政策企画課特命課長 今月中くらいに1度、もしここ以外のところでも御意見があれば、それも含めて1度整理したものを皆さんの方にお送りさせていただいて、御覧いただく機会をと思っていました。その結果を踏まえて、次回の部会の方に。

○吉野英岐部会長 そうですね。予定では、次回は7月29日。約1か月ちょいあるので、ここで最後一応完成版。

○池田政策企画課特命課長 完成版は9月です。

○吉野英岐部会長 もうちょっと後ですね。

○池田政策企画課特命課長 ええ。7月の段階では、それをもって評価の方にもう入っていきたいので、分析の中核の部分はそれでやっていただくと。

○吉野英岐部会長 分かりました。

では、最終提出まではもう少し時間があるようですので、今の御意見を踏まえて、先生方からも追加で御意見いただければ、それも入れたあたりで構成をもう一回ちょっと練ってみようかということで、取りあえず今日は12時になりそうですので、一旦は議論を今日のところはこれで終わりにしたいと思います。

竹村先生、若菜先生、何かありますか、いいですか。

特に何も聞こえなかったけれども、顔が横に振れていました。

ティー先生、どうぞ。

○ティー・キャンヘーン委員 議論が、読み手がどう読んでいるかという議論であれば、基準年を中心に比較することを、一番前に頭出ししてもらった方が読みやすいと思います。できれば、さっきのサマリーの件もあつたので、第1章の報告書の内容についてそれを明記してもらえば、幾分読みやすいのではないかなと思うので、それちょっと検討してもら

えばと思います。

○吉野英岐部会長 去年も基準年と比較なのだから、今年もそれと同じようなことで。

○ティー・キャンヘーン委員 去年も。

○吉野英岐部会長 書いておかないと。

○ティー・キャンヘーン委員 そうでないと、何か。

○吉野英岐部会長 常にずれてしまう。ローリングしてしまうという。
谷藤委員。

○谷藤邦基委員 ティー先生のおっしゃるとおりだと思うので、要はなぜ基準年比較がメインなのかというところをきちんと書かないと、何で去年との比較がもっとないのという声も出てくると思うのです。結局本書の報告書の内容のところを書いてあるのはそのとおりで、ここもうちょっと具体的に、つまり今いわて県民計画の第1期のアクションプランというか、政策推進プランが動いているわけですけども、これ4年間で終わるので、来年度第2期の策定に入る。ということは、今我々がやっていることの意味は、第2期のアクションプランに反映させるために第1期アクションプランがどれだけ県民の幸福実感に影響しているのか、していないのかというのを見るのが主眼ですから、そういう趣旨で考えれば、基準年に対してどれだけ変化があるのかというのを見ていくのが主眼になると思うのです。ということで、そこら辺をもっとはっきり書いてもいいのかなとは思って見ました。

○吉野英岐部会長 ごもっともでございます。強敵コロナを前にして、私たちのスタンスをぶれないようにするにはどうしたらいいのかというのはあれですけども、全体の県民計画とのリンクがやっぱり。

はい、どうぞ。

○若菜千穂副部会長 すみません、聞き取りにくいです。

○吉野英岐部会長 そうですね。すみません。

何で基準年比較をするべきかということを書きとおいた方がいいという御意見をいただきました。それは、分析そのものが総合計画審議会の部会になっていまして、総合計画審議会が最後に御議論いただいて、県民計画というのがやっぱり4年間の最初の前期といいましたか、それがありますので、それだと平成31年を基準にしているのかな、その県民計画がちゃんと県民に届いているかどうかということを実感レベルで今調べているということを見ると、やはり基準年から見て現状はどうかということを絶えずチェックすることがまず大きな一つのこの部会の使命ではないかと。

ですので、レポートでもまずこれは基準年との比較を中心にやっていくということを一応明記した上で、しかし今年度、令和2年から3年については、もうコロナという大変未曾有の大危機が起きているので、それについても念頭に置きながら対前年比較はして、それも結果を併せて載せるというような形で書いてみてはいかがかというような御提案がありましたということですが、竹村先生、分かりますか。いいですか。

ミュートにしたまま頭下げられてしまうと、黙ってなくていいのですよとか思ってしまうけれども。よろしいですか。

では、お時間があと2分ぐらいですので、一旦今日のところは終わりにして、また事務局の方にお戻しします。

今池田さんが元の場所に帰って、マイクも一緒に今度移動させますので。

(2) その他

○池田政策企画課特命課長 御議論ありがとうございました。

次回の部会につきましては、次回から公開、昨年は公開という形になっておりましたけれども、その取扱いについて御審議をいただきたいと思います。

○吉野英岐部会長 次々回が公開ぐらいかな。まだちょっと議論の途中であるというようなスタンスでもいいのですか。

○和川央委員 非公開理由つくれますか。意識調査いつ公表ですか。

○桜田調査統計課主任主査 意識調査の報告書の方は来週。

○吉野英岐部会長 公開というのは、傍聴人がいるかいないかということですよ。

○池田政策企画課特命課長 資料の公開も含めます。基本的に非公開にする場合については、その非公開にする理由が必要になるのですけれども、現状とすると県民意識調査の結果も公表されるので、公表する中でやらざるを得ないかなど。

○吉野英岐部会長 では、池田さんの頑張りを見込んで、公開でよければ公開にしましょう。

○池田政策企画課特命課長 はい、頑張らせていただきたいと思います。

では、次回は一応公開でやらさせていただきます。

○吉野英岐部会長 分かりました。それに向けて準備しましょう。

○池田政策企画課特命課長 それでは、長時間にわたり御審議いただきありがとうございました。

次回の研究会は、先ほどもお話がありましたとおり、7月29日9時半からということ

御予定してございますので、御対応の方をよろしくお願いいたします。

3 閉 会

○池田政策企画課特命課長 以上をもちまして本日の部会を終了いたします。本日はありがとうございました。